



細江カトリック教会だより

復活号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>



復活節を生きるということ

ようやく温かい日射しのもとで、復活節の喜びを共に味わう季節が巡ってきました。コロナ禍がこれほど長引くと、当初感じたような恐怖感は消えましたが、本来の日々を回復するための意志がはたして十分あるのかと、不安になることがあります。そんな中で祝われた今年の復活祭はどうだったのでしょうか。



復活節中の主日に読まれる聖書朗読箇所は、主にヨハネ福音書から取られていますが、そこには、人間に希望を与える慰め深い言葉が溢れています。イエスの復活をなかなか認められなかったトマスの話、ガリラヤ湖での不思議な大漁、さらには、よい羊飼いの話など、生前のイエスの事績とはやや異なる性格のものが多いように思えます。それは、ヨハネ福音書が、出来事を客観的に記述することよりも、そこにおられる主イエスの心を描き出そうとしているからかもしれません。週日の聖書朗読に目を転じるならば、そこには、まさに、ヨハネが記すイエスの姿、イエスの思いが日々あらわになってきます。6章に記されたパンを増やされた出来事に続く「いのちのパン」についての長い説教、そして、13章から始まる最後の晩餐でのイエスの別れの説教、ぶどうの木のとえ、愛についての教え、聖霊の派遣

など、そうした豊かな内容が復活節の間、読み続けられるのは何を意味するのでしょうか。

これは、復活節が、生前のイエスの事績を追ってご生涯を記念する年間の季節とは異なり、復活を頂点とするイエスのご生涯の意味を、イエスご自身の言葉を通して、味わい、ゆっくり咀嚼する時期だからかもしれません。今、わたしたちが教会に集うのは、まさに、イエスの

復活後、イエスの弟子たち、そしてキリストを信じ、従う者が経験してきた信仰の歩みを追体験するためです。そこで求められている

のは、あの、弱さに満ちた人間の現実の中で生きられたイエスを思い起こすこと、それと同時に、今、わたしたちのうちに、わたしたちと共に生き働いておられる主イエスと親しく交わること、この二つを意識して日々を過ごすこと、復活節には、そんな課題が与えられているように思います。

コロナの終息を待てないかのように、突然、世界を襲ったウクライナでの戦争の知らせ、そして、連日流される悲惨な映像、人々の苦しみ、それは、主の復活とどのように結びつくのでしょうか。復活された主が、今も、この人間の世界とともに生き、働いておられるのなら、どこにその姿を見、声を聞き、光を感じる事ができるのでしょうか。そんな問いをいただきつつ復活節を過ごせたらと思います。

作道 宗三 神父

四旬節黙想会 3/20

「兄弟姉妹と共に歩む」

講話 デイン神父様



教皇フランシスコ 回勅 「兄弟の皆さん」

兄弟愛と社会的友愛についてのこの呼びかけのことばは、すべての兄弟姉妹に語りかけ、福音が香る生き方を勧めるためにアッシジの聖フランシスコが用いたことばです。コロナウイルスによるパンデミックに加え、ウクライナの人々の苦難、死の恐怖、危機的惨状を目のあたりにし、正義と平和を大切にす私たちですが、同時にあいまいさや無関心のグローバル化にも流されています。その危うさ、愚かさ、正当化する傲慢さ。

人は誰も一人で自分を救うことできない。三位一体の神、父である神が「人は一人であるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」と、創世記にあります。

人は、基本的に他者と共に歩む者なのです。さらにすべての人を救うため、父なる神は、人間を愛である神へと向かわせるために、御子主イエス・キリストを世に送って下さいました。私たちは、神の愛に出会い、聖霊に力づけられ、希望をもって、永遠の命を信じて生きています。キリスト教の神は愛です。(ヨハネの手紙 I 4:7~8 神は愛)

「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」(ルカ 10:25~37 善いサマリア人)

律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

教皇様は、人間の傲慢さを戒め、善いサマリア人になれと呼びかけています。日々苦しんでいる人は多いのです。無関心でいるのか、サマリア人になるのか。

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒へ手紙 12:15 キリスト教的生活の規範)

講話の中で神父様はギターを弾きながら「キリストの平和が、わたしたちの心のすみずみにまで、ゆきわたりますように」を歌われました。5人兄弟の長男として、時々兄弟喧嘩の裁判官を務められたそうです。

続いて主日ミサで、「実のならないいちじくの木」のたとえ(ルカ 13:6~9)を朗読されました。

「ご主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥しをやってみま。そうすれば、来年は実になるかもしれません。」

園丁の答えは、忍耐強く待つて下さるキリストご自身でしょう。キリストは十字架にかかり、永遠に忍耐強く待つてくださっています。回心が十分にできない私には、もっと成長できるように、ゆるしの秘跡に招かれていることばに思えました。

善きサマリア人になれるか

兄弟姉妹と共に歩んでいるか

四旬節、回心の時、自分への問いであり、促しです。

(広報委員)



聖週間



* 枝の主日、コロナ禍バージョンのために行列なしで聖堂入口で枝の祝福を。

* 聖金曜日



* 光の子となりなさい・・・



* 復活の聖なる徹夜祭 4/16



* 復活の主日 4/17

カトリック教会の交わりの中へ入られた
マリア・アンナ小林直美さん、ようこそ！

皆さま、よろしくお祈りします。



地区だより

本町地区

わたしの暮らす街

買い物の帰り、坂道を下りながら「下ってる一」と思うのです。下り終わったらすぐ右手は公園。ブランコ等の遊具が置いてあります。夕方4時頃なら小学生が、5時近くなれば親御さんと一緒に保育園の子が、それより遅いと中高生が利用しています。チラホラと散歩のお年寄りもおいでです。

公園を過ぎるとわが家への道は赤岸通りです。この辺りは江戸の昔からあり、子どもの頃には魚屋さんが二軒、肉屋さん、八百屋さん、雑貨屋さん、洋品店までありました。当時は軒先が欠けた家があり、それは高杉晋作が小倉から石燈籠を分捕って来た時のものだと言われていました。

さて、赤岸通りから山側に入る道に清水坂

復活おめでとうございます



* 復活徹夜祭 4月16日、受洗されたラファエル津田将来さんと司式司祭の作道神父さま、中井神父さまと奉仕者たち

があります。大きな通りにも抜けられる便利な道ですが、ひどい坂もあり凍ると大変です。三丁目のバス停から十分ほどですが、雑木林が残る緑豊かな地域です。

柳沢 佳枝

詩 ポエム poem

きみはカーレーサー・絵本店にて

車イスの足元がよかったのか、
きみは大きな積み木に
またがって走って来た
「私、カッコいい！レーサーみたい」と
彼に言うと、
スピードは加速した、ちいさな声も大きく
加速し、「パパも赤、ぼくもあかい車なんだ」
「赤いなんでも、車イスもまけそう～」
彼の背中にバイバイ
たくさんの未来、夢いっぱい輝いている。



本町地区 藤本幸枝

ベトナム青年の紹介

はじめまして、わたしはホアンです。
わたしは26さいです。
ベトナムからきました。
いまは、にほんのしものせきに、にねんかんすんです
日本でまいしゅうしゅうまつにきょうかいにいます。
きょうかいにわたしのともだちたくさんいます。
ベトナム人と日本人がいます
みんなやさしい人です。
きょうかいでいのりがおわたたらたべものやのみものをいっぱいもらいます。
ほんとにありがとうございます。



以上です。

Nguyen Hoang

*原文のまま記載させていただきました。

共同祈願

* ウクライナで起きた戦争や世界各地の紛争に巻き込まれ、耐え難い苦難と不安の中にある人々のために祈ります。必要な支援の手が差し伸べられ、平穏な日々を取り戻すことができますように
* ウクライナ、世界各地の紛争や暴力で亡くなったすべての人と遺族のために祈ります。神のもとに召された人々に永遠の安息が与えられ、遺族の方々が慰めと生きる希望を見いだすことができますように。



† 帰天

・3/11 マルタ 土橋 キヨ子 (101歳)
永遠の安らぎのなかへ・・・



編集後記

・細江教会では、特にコロナ禍で生活が困窮している外国人留学生や就労者への物資等の支援の用意があります。遠慮なく申し出てください。また、皆さまのご支援をお願いします。

・労働教育センターの中井神父さまや橋本シスター、スタッフの方々が行っている子ども食堂「ロクスひよりやま」、キッチンカーなど、様々な企画をし、また子育て中のママさんや子どもたちへの支援もしています。神父さまによる talklive も楽しみの一つです。どうぞお立ち寄りくださればと思います。(教会から日和山への階段は何度も休みながら登って行きました。ひーひーと息が上がり、脚の衰えを感じました)

.....
何でも相談受付中・・・細江教会のデイン神父、労働教育センター中井神父、教会総務(近藤)までご連絡ください。